

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和4年10月20日（木）

2 確認箇所

- (1) 3号機タービン建屋外壁北東側
- (2) プロセス主建屋

3 確認項目

- (1) 3号機タービン建屋外壁止水工事の状況
- (2) 除染装置スラッジ回収施設搬入用仮設構台等設置工事の進捗状況

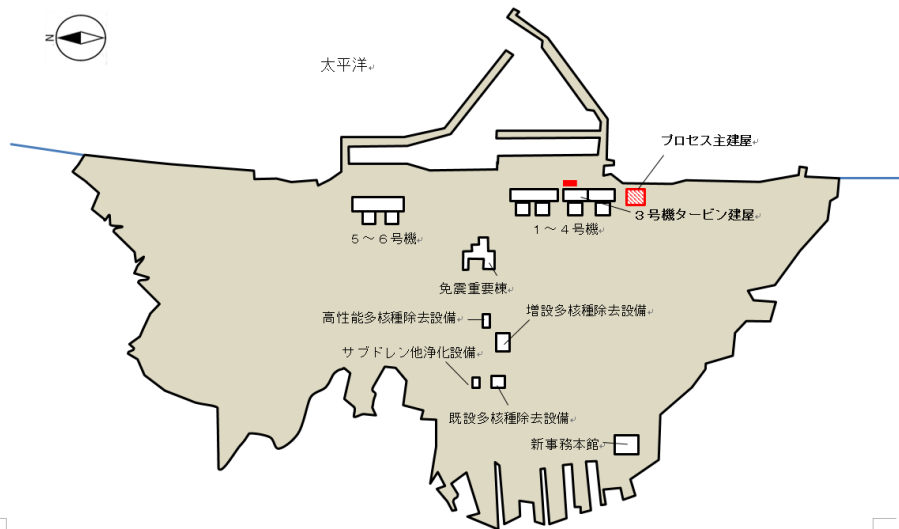
4 確認結果の概要

(1) 3号機タービン建屋外壁止水工事の状況

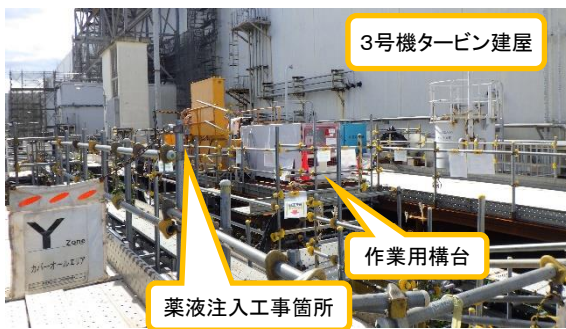
1～4号機建屋への雨水及び地下水の流入については、雨水の流入抑制対策として建屋周辺のフェーシングや屋根の補修等が進められており、地下水の流入抑制対策としては地下水バイパス、サブドレン及び陸側遮水壁が運用されている。東京電力では、建屋流入量のさらなる低減のため、最も適切な対策について幅広く総合的に検討するとともに、建屋周辺などの高線量ガレキの撤去が進むなど施工環境の改善が図られてきていることから、施工可能な箇所において、局所的な止水対策に取り組むとしており、今後も1～4号機周辺のフェーシングにより雨水の流入抑制を進め、さらなる流入抑制として、残存する配管等の建屋貫通部や建屋間のギャップ（隙間）端部への止水対策を検討するとしている。

建屋への流入量が最も多い3号機では、深部（T. P. + 2 m以深）に残存が確認されている建屋貫通部（北東部2箇所、南東部1箇所、南西部2箇所）における止水方法を検討することとし、3号機タービン建屋北東部においては薬液注入による止水工事が計画されていることから、前回に引き続き状況を確認した。（前回確認日：令和4年9月20日）（図1）（写真1）

- ・地面の掘孔作業は終了したため、前回設置されていたボーリングマシンは撤去されていた。（写真1、2）
- ・現場には、2種類の薬液注入工事用機材が設置されていた。（写真3）
- ・現地確認時、ボーリング後に設置した薬液注入口（ケーシング）へ試験的に水（薬液を模擬）を入れる作業を実施していた。（写真4、5）



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1)
3号機タービン建屋北東部概観
(北東側から撮影)



(写真2)
薬液注入工事用機材の設置状況①
(全体)



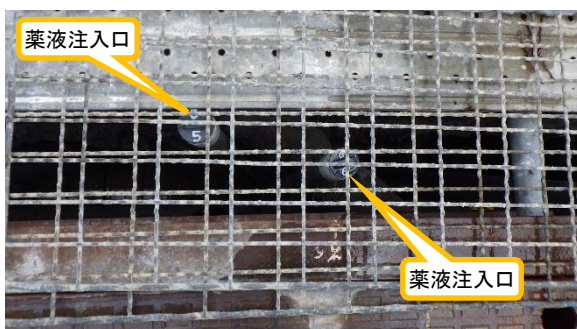
(写真3-1)
薬液注入工事用機材の設置状況②(粒子の粗い薬液を注入。)



(写真3-2)
薬液注入工事用機材の設置状況③(粒子の細かい薬液を注入。)



(写真4)
薬液注入工事の実施箇所の状況



(写真5)
薬液注入口(ケーシング)の状況

(2) 除染装置スラッジ回収施設搬入用仮設構台等設置工事の進捗状況
敷地東側のプロセス主建屋(以下「PMB」という。)の地下貯槽には、震災で発生した汚染水を除染装置で処理した際に生じた高線量のスラッジ(除染装置スラッジ)が約37m³貯留されている。この除染装置スラッジは、PMBに津波が到来した場合に漏えいするリスクがあることから、回収して高台に移送する計画がある。

PMB南側では、廃スラッジ回収装置の設置に向けた準備工事として、作業員のアクセス、機器の搬入のための搬入口及び仮設構台の設置が進められていることから、状況を確認した。(図1)(写真6)(前回確認:[令和4年6月16日](#))

- ・仮設構台の中2階には、ダストモニタが2台設置されており、ビニールハウス内外を測定している(写真7)。当日、プロセス主建屋壁面に開口部を設ける工事が行われていたが、ビニールハウス内外でダストモニタの測定結果に顕著な差異はなかった。



(写真6)
プロセス主建屋南側壁面の状況



(写真7)
ダストモニタ設置の状況

- 5 プラント関連パラメータ確認
各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。